

PAM通信 コラム

2009年11月発行

〈第32回〉天然ボケ

前回のコラムでは“コーディネーター”に焦点を当てて、介助派遣について考えてみました。今回のコラムでは“介助者”に焦点を当てて考えてみたいと思います。

利用者に好まれている介助者を思い出してみると、効率よく介助ができる人、家事仕事に上手い人など、作業能力の高い人の顔が思い浮かびます。しかし、それとは少し個性の異なる“天然ボケの人”の顔も多く思い出されます。作業能力が高い介助者が好まれるのは想像に難くありませんが、天然ボケの介助者が好まれているのは何故でしょうか？天然ボケという表現は良い意味では使われないことが多いですが、ソフトな雰囲気を持ち、一緒にいて楽な人という見方も出来ると思います。そして、利用者に好まれている天然ボケの介助者の一番の特徴は「利用者のやり方やペースに合わせた介助ができる」ことだと思います。このことは在宅の介助者に最も必要とされる能力であると私は思っています。介助の作業能力が高くて（もちろん天然ボケでも）自分のやり方やペースでしか介助のできない人は、利用者に好まれていないことが多いからです。つまり、天然ボケの介助者が利用者に好まれるのは、他人のやり方やペースで動くことが上手い（向いている）からかもしれません。

「利用者のやり方やペースに合わせた介助ができる」ことだけが在宅の介助者に要求される要因ではありません。「時間や約束が守れる」ことは当然ですが、「丁寧な介助ができる」、「すぐに動けるように待機しているが利用者の邪魔にはなっていない」ことも、とても重要な要因です。「利用者のやり方やペースに合わせた介助」と同じ意味合いを持つ「何をすべきか、どうすべきか尋ねることができる」こともまた重要です。こう考えると介助者は“利用者のやり方やペースで動く”ことと同時に“効率よく作業を行う”という矛盾を含んだ複雑な行為を行わなければならないこととなります。これはかなり難しく大変な行為です。しかし、どんな仕事でも、その道のプロフェッショナルと呼ばれる人たちは複雑な行為をこなしているものです。介助者の皆さん、どうですか？プロフェッショナルの介助者になれそうですか？

もちろん、介助者の理想形は1つではなく、利用者の求める介助者の資質も多様だと思います。求められる能力を1つでも持っていれば介助者として働くことは可能でしょう。しかし、介助者の皆さんには大志を持って仕事に望んで欲しいと思います。プロフェッショナルと呼ばれなくとも自分の仕事にプライドを持てるほどに！！（T）